

Toshiko Yuasa Laboratory Ceremony

2009 05 21 in KEK

お茶の水女子大学と湯浅年子博士

1) 女性研究者育成の基盤であるお茶の水女子大学

- ・ 国によって設置された初めての女子高等教育機関「東京女子師学校」(1875年)
- ・ この学校で、日本の先駆的女性科学者が育成されました。
- ・ それは、保井コノ、黒田チカ、辻村みちよ、そして、湯浅年子博士です。

1

日本初の女性理学博士

安井 コノ (1880-1971)

「自分の仕事が残ってゆけば、それだけで自分は満足できる」

日本初の女子帝大生

黒田 チカ (1884-1868)

「天然ものは正直。真を以って一生懸命で向かったら、必ず門を開く」

日本初の女性農学博士:お茶博士

辻村 みちよ (1888-1969)

国際的に活躍した最初の日本人女性科学者

湯浅 年子 (1909-1980)

2

2) 湯浅 年子博士

「科学の根本精神は、広い豊かな愛である。」

- ・ 和歌、茶の湯、琴、長唄、歌舞伎など日本の文化の伝統を受け継ぐ母親と、科学者であり発明家であった父親の深い愛情
- ・ 東京女子高等師範学校付属高等女学校に進学
「すすむべき 正しき道を 目知らば 我に教えよ 今宵この時」
- ・ 1927年に東京女子高等師範学校理科に入学
ムラサキツクサの雄しべ、蝶の鱗片を顕微鏡で観たときの驚きとよろこびを語り、美しい神秘、奥なる秩序を知る道こそ自分の仕事であり、「物理が私の本然の仕事」と感じた
- ・ 東京女子高等師範学校から東京文理科大学へ
ジュリオール＝キュリー夫妻の論文との出会い

3

3) フランスへ

- ・ 1940年3月、ようやくパリに到着

「私は祖国で経験のしたことのない自由を味わった。」

- ・ 湯浅博士は、日本の女性研究者を育成する努力を続けられました。



昭和16(1941)年頃
コレジ・ド・フランスの屋上で

4

4) 日本への帰国(1945-1949) - 科学に生きる女性のために -

- ・ 「できるだけ早く、少しでも広く、科学に生きる女性のために門戸が開かれるように願うとともに、この道に志した私たちはまたこれを促す義務をもつでしょう」
- ・ 保井コノ博士、黒田チカ博士とともに、高度の女子大学創設を目指し、奔走
- ・ 1949年2月に彼女が再度フランスに渡ってまもなく、東京高等女子師範学校は、「お茶の水女子大学」として新たな歩み始める



1948年 5

5) 現在のお茶の水女子大学 - 理念 Mission -

学ぶ意欲を持つすべての女性のために
“真摯な夢の実現の場”として存在する

学生数	学部生 2,166人、大学院 1,073人
学部	文教育学部、理学部、生活科学部
大学院	人間文化創成科学研究科
女性の割合	学長・理事・副学長 33.3%
	教授・准教授・講師 44.5%
	全教員(助教を含む) 47.6%
	事務職員 34.7%

(2009年5月1日現在)

- **リーダー育成**
オピニオンリーダーとしての高度な教養
- **国際性**
加速されるグローバル化への対応
(情報化社会の急速な進展への対応)
- **学際性**
複数の領域・テーマに柔軟に対応できる能力
- **男女共同参画**
「ワーク・ライフ・バランス」の実現

6) 今も生きる湯浅博士の理念 - 教養教育と高度専門教育 -

「真の科学する心は、他のあらゆる本質的なことに通ずる心である。
芸術に、文学に、そして宗教に通ずる心である。」

現在のお茶の水女子大学の教育

- ・ 21世紀型教養教育としてのリベラルアーツ教育
- ・ 女性研究者支援の拠点
- ・ 自立的若手研究者の支援
- ・ 女子大学設立に尽力した湯浅年子博士の生誕100年の今年、お茶の水女子大学は新制大学創立60周年

関連ホームページ

- ・ お茶の水女子大学 <http://www.ocha.ac.jp/>
- ・ お茶の水女子大学デジタルアーカイブス <http://archives.cf.ocha.ac.jp/>
- ・ 湯浅年子メモリアルホームページ http://www.th.u-psud.fr/YUASA150/Yuasa_event/intro-jp/profile.html